



ゴメ島と浜辺をつなぐ「コンブの道」に大苦戦する参加者

1年に1度しか渡ることのできない温根元漁港沖の無人島「ゴメ島」。市歴史と自然の資料館の主催でゴメ島の自然を観察する「春の自然観察会」が開催され、親子を含む30人余りが参加しました。「ゴメ島」は、長さ約200メートルほどの岩礁で、カモメ（ゴメ）の繁殖地となっています。毎年、6月の大潮の干潮時に、島と浜辺をつなげ

「ゴメ島」を探検だ！

—春の自然観察会 6 / 13—



ゴメの巣を発見して写真を撮る参加者

る大パノラマが展開されます。浜辺を進んで行く、まるで参加者を島へ導いているかのような「コンブのカーペット」が、目の前に広がっていました。島へと続く道は、まさに大自然のアトラクション。参加者はコンブと岩に足を取られ、「転んだらぶぬれ」というスリルも楽しんでいるようで、無邪気な歓声が上がっていました。島に到着すると、たくさんのゴメたちが、空に舞い上がってお出迎えてくれました。ゴツゴツした岩山の頂上を登ってみると、ゴメの卵なども見ることができ、参加者は一味違った自然の姿を楽しみました。



水産業を活かした地域活性化を目指して

—根室市と東海大学海洋学部 相互協力協定調印式 6 / 10—

新産業の創出による地域振興などで協力し、相互の発展を図るため、根室市と東海大学海洋学部による相互協力協定調印式が、北方四島交流センターで行われました。調印式は、産業経済界関係者などが立会人として見守る中、長谷川市長と加藤学部長が協定書を交わしました。この協定は「水産業を活かした地域振興」や「水産加工の研究開発」などの連携を目的としたもので、加藤学部長が、サンマのすり身開発に意欲を見せるなど、根室市の新たな再興策につながるものとして、大きな期待が寄せられています。



うまい！落石の味覚、大好評！第4回おちいし・味まつり6 / 6！落石地区の魚介類やユルリ・モユルリ島周遊航行などを楽しめる「第4回おちいし・味まつり（マリンポートフェスティバル実行委員会主催）」が、落石漁港で開催されました。まつりの雰囲気盛り上げる大漁旗が飾られた会場は、特産品のホッキ貝や殻付きウニを求める市民で賑わい、早速、新鮮な魚介類を炭火焼きコーナーで味わう市民の顔は「ほっぺたが落ちるようなおいしさ」と大満足の表情でした。漁船4隻によるユルリ・モユルリ島周遊航行には30人余りが参加し、雄大な自然や野鳥観察を楽しむなど、落石地区の魅力を十分に楽しむことができた1日となりました。



開港100周年を節目に、新たな出発を

—エゾヤマザクラ植樹6 / 1—

市役所前庭のフラワーモニュメントの植栽やガーデニング講座など、まちの緑化運動を積極的に推進しているI・L・G花いっぱい協議会が、根室港開港100周年を記念して、エゾヤマザクラの成木5本をときわ台公園に植樹しました。ラクスマン来航200年記念碑周辺で行われたこの植樹には、20人余りの会員や市民などが参加し、「根室港を中心に、根室のまちがさらに発展するように」という願いを込めながら、丁寧に植えられました。植えられたサクラは、たくさんの人々の心を和ませてくれる美しい花を咲かせ続けるでしょう。